

「この空 この海 このあおさ」

伊勢の五ヶ所は真珠の港 波のしずくも珠となる♪ 野口雨情



撮影:2012 年 11 月 10 日午前 6 時 40 分 五ヶ所湾入り口「宿・田曾」の山々から朝日が昇りました。ウバメガシの純林が広がる山々の木々は、海の際で満潮時の海面の高さで一直線に並び、森と海の境界線を引いています。この入江ができた太古の昔から、森の恵みが海を育てています。

快晴に恵まれた海辺の里山、三重県度会郡南伊勢町五ヶ所浦の公民館にて、三重県「南勢テケテク会」のお世話で第 12 回紀伊半島三県森林ボランティア交流大会が開催され、当会からは中岡さん、寺西さん、井奥の 3 名が参加しました。

和歌山県 15 名、奈良県 19 名、三重県 22 名の森林ボランティアが集まり、「海・川・森を結ぶもの」をテーマに、自然環境を守ることの大切さを知り、ディスカッションやグループワークを通じてグループ活動の進め方や大切さを学び、参加者全員の交流と連携を深めました。

翌日は 2000 年の歴史を持つ伊勢神宮の宮域林(ぐういきりん)の森作りを勉強させてもらい「ふるさと演習林」の目指すべき、未来の森の姿を見せていただきました。

伊勢の海と山の美しさの中での貴重な体験に心から感動すると共に、自然を愛する人の暖かい心・思いやりの心・きずなの大切さを改めて感じるたいへん有意義な活動になりました。

見返りを求めないボランティア活動の大切さや、目指すべき活動の目標、更には会の運営方法など学ぶべきことを、多々感じました。

私たちの会も、笑い声がいっぱいで、自然にたくさんの人が集まってくる会にしたいものです。



海の博物館館長 石原義剛氏の講演
山にある船の祭り、山へ登るアユ・ウナギ、海の森と付き合い海女。



3 枚の絵を使った 1 分間の紙芝居。全員が発表したあと、更にグループごとに森林ボランティア活動の紙芝居を発表しました。



天を突く樹齢 500 年～700 年の榲杉(神宮杉)
2100 年前、垂仁天皇の時代に開かれた皇大神宮(内宮)
20 年に 1 度すべての建物、調度品が新しくなる式年遷宮が
行われます。第 62 回式年遷宮は平成 25 年です。



神宮宮域林。この緑の山々は大正時代初めははげ山でした。
この山が式年遷宮の造営用材を作るまでに育ちました。
今回は、この山の歴史と文化、森作りの方法を学びました。

神宮宮域林の森作り 神路山と島路山 千古の趣をたたえる自然林は、このように作られました



約 5500 ヘクタールの広さを持つ伊勢神宮の森「神宮宮域林(じんぐうぐういきりん)」は、市街から見る風致重視の第一宮域林と式年遷宮の際の御用材を育てる第二宮域林があり、1・神宮の尊厳を創る風致景観、2・五十鈴川の水涵養、3・式年遷宮に必要なヒノキの確保を目的に育てられています。

当日は神宮司庁の営林部の村瀬氏に、用材育成の方法や御杉山(みそまやま)で伐採作業を始めるにあたり、御用材を伐採する祭「御杉始祭(みそまはじめさい)」の儀式的進め方、伐採方法の説明を受けました。

この森は、御山杉(神宮杉)と御用材ヒノキの間に常緑広葉樹が生える針広混交林です。胸高 1.2 メートルで 60 センチ以上の木に目印を付けて残し、その中にモミジやタマミズキなどの落葉広葉樹、ツバキやサカキなどの常緑広葉樹、その下にはイズセンリョウなどの常緑灌木、地面にはマツカゼソウなどが育ち、見事な森が作られていました。この美しさは、どこから来るのでしょうか。どのようにすればこのような森になるのでしょうか。今後「ふるさと演習林」もこのような森を作りたく、良き指導者に会えることを願うばかりです。

この森は、かつて江戸時代は煮炊きや風呂を沸かす薪材が乱伐され、はげ山のようになったようです。荒れ放題だった宮域林の管理は、明治時代に国に移り、1923(大正12)年に200年先の遷宮を見据えた「神宮森林経営計画」が作られ、200年たったヒノキを育てる山として作られてきました。式年遷宮の社殿造営に使うヒノキを切り出す場所としてようやく育ち、今回の式年遷宮のヒノキの約25%がこの神宮宮域林から出せるようになったそうです。森作りのヒントをたくさん教えていただき感謝しています。

神宮の森の樹木



イズセンリョウ

伊勢志摩の海の森の植物 アマモ



アマモ

ヒノキの間に広がるイズセンリョウ。アサマツゲやトキワマンサク、ジングウツツジなど珍しい樹木も育っています。右の写真は、五ヶ所や志摩の海の中に広がるアマモの群落です。山の森が育てる海の森で、魚や貝、エビたちが育ち我々に恵みを与えてくれます。

番外

昭和11年童謡詩人野口雨情は、内宮から神路山の剣峠を越え、我々が宿泊した五ヶ所の二葉旅館で逗留し「五ヶ所小唄」を作っています。冒頭の歌はその一節です。志摩の五ヶ所は日本一雨情の歌碑が多い町です。

宿の美人女将が懇親会で歌ってくれた五ヶ所小唄。風情ある雨情の直筆の書も見せていただきました。現在、五ヶ所へは広く美しい道路がつき気軽に行けます。ここは素晴らしくおいしい魚料理が食べられる海辺の里山です。

井奥 恵三